

特定非営利活動法人(NPO法人) にいがた地域創造センター

ちいきそうぞう



第12号

2016.12.20

主な内容

就任のご挨拶

理事長 鈴木 政義…… 1

にいがた地域創造センターに感謝申し上げます

新潟県土木部長 美寺 寿人…… 2

退任にあたって

前理事長 山岸 守…… 2

身近な社会資本の見学会

新潟地域整備部長 原山 茂…… 3

活動報告…… 5

活動状況報告…… 6

河川情報モニター実施報告及び

都市公園情報モニター実施報告…… 7



就任のご挨拶

理事長 鈴木 政 義

一日一日と朝の冷え込みが厳しさを増す頃となり、街並みから木々の緑が消え冬の訪れを知らせる季節となりました。

会員の皆様には、日頃から、にいがた地域創造センターの活動に対しまして、ご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、私こと、このたび理事会にて、山岸理事長の後任として新理事長の役を仰せつかることになりました。松井理事長を初めとして5代の理事長の足跡、また当法人の13年間にわたる活動の重さをひしひしと感じ、身が引き締まる次第です。薄才の身であります。精一杯その役目を果たしていく所存です。

これまで、当センターでは、会員の皆様が長年培った、建設技術や行政経験を活かして、様々な取組みを進めてまいりました。

「河川情報モニター」や「都市公園モニター」は、当センターの基幹的な活動として、社会貢献の一端を担う役割を果たしてきたと自負しております。その他、新潟県土木部や新潟県建設技術センターが実施する講習会やセミナーへの講師の派遣も行っており、今後も当センター会員の経験や技術を活かした活動に取り組んでまいります。

近年の活動として、「身近な社会資本の見学会」や「地域懇談会」があります。

「身近な社会資本の見学会」については、新潟県からの委託により、将来の建設業を担う高校生を対象に、土木施設が人々の生活に果たしている役割を実感してもらい、建設業と地域社会との関係について理解を深めることを目的に実施しております。これまで、山の下関門排水機場と通船川を社会資本の題材として4回実施してきました。特に、通船川と信濃川との2mの水位差の乗船体験は、参加した高校生にとって貴重な体験となっております。今年は、新潟工業高校を対象に、学校側の希望で建設中の現場も加えた見学会を実施し、さらに内容の充実を図りました。これまでの実施結果により、このイベントの確かな手ごたえを感じているところです。

地域懇談会については、当センター役員と地域の会員との交流の機会として、県地域整備部の協力も頂きながら、平成24年より実施してまいりました。村上、糸魚川、十日町、南魚沼地域とこれまで4回の懇談会を実施しましたが、会員相互の交流を深めて頂く機会として、参加者から好評価をいただいております。今後も、懇談会の開催により会の活性化を図ってまいります。

今後の当センターの活動につきましては、これまで同様の社会貢献活動に加えまして、さらに新潟の地域活性化のため、より幅広い活動の可能性を探っていくことも重要と考えております。

会員の皆様には、一層のご支援ご協力を賜りますことをお願いいたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。



にいがた地域創造センターに 感謝申し上げます

新潟県土木部長 美寺 寿人

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

本年4月の熊本地震や北海道・東北地方を襲った8月の台風10号などでは、甚大な被害が発生しました。台風10号による洪水では岩手県内において多くの方々が亡くなり、河川管理者が住民避難を判断する市町村に対して、地域の水害危険性をしっかりと周知することの重要性を改めて認識しました。国土交通省では、本県を含む9道県や消防庁などを構成員とした「地域の水害危険性の周知方策検討会」を設置し、都道府県などが管理する河川における市町村の避難判断を支援する方策を年度内にとりまとめることとしております。

地震や洪水などにより、多くの公共土木施設において被害を受けた場合、被害調査や災害査定などを含む一連の災害復旧に必要な人員が不足し、被災した県だけでの対応では困難な状況となります。本県では、中越大震災の際に全国の自治体から多くの応援職員の派遣を受け、また、東日本大震災などでは本県から応援職員を派遣し、熊本地震の際にも災害復旧業務の支援として3ヶ月間に土木技術職員を延べ6名派遣しました。都道府県の土木技術職員は10年前と比べて1割以上減少しており、大規模災害時の他県との連携だけではなく、通常時においても社会インフラの維持のために、NPOや住民の皆様方などとの連携が不可欠と考えております。貴センターには、河川や都市公園の情報モニター実施を通じて、特に河川情報モニターでは活動開始から10年もの間、県を支援していただいております。長年の取組に対して心より感謝申し上げます。

今後とも建設技術を通じて社会貢献を担う貴センターの災害時を含めた様々な活動に期待するとともに、皆様の益々の御発展を祈念いたします。



退任にあたって

前理事長 山岸 守

「いつの間にか新潟平野に白鳥の集団が群れをなし、遠い山並みが真っ白い冬景色の季節になりました。」と書き始めた就任のあいさつから早くも2年が経ちました。

理事長として2年間大変お世話になりました。地域創造センターをこれからも末永く継続させていくため、若々しい新しいメンバーに業務を引き継ぐことにいたしました。

「河川パトロール」、「都市公園情報モニター」、「鳥屋野潟公園での植樹寄贈」、十日町、南魚沼等での「地域懇談会」、ささやかではありますが、社会貢献や地域の活性化のお手伝いのできたのではないかと考えております。

また、「身近な社会資本の見学会」を近隣の高校生対象に行いました。学校とは違った視点で社会資本や施設の建設を見たことで、土木の世界の一員となるきっかけになったら幸いです。

理事長は退任しますが、理事を含め6年間お世話になりました。「ふるさと新潟」のお役に立てるよう今後とも会員として活動していきたいと考えております。ありがとうございました。



NPO法人にいがた地域創造センターと連携した
地域を支える建設産業の底力発信事業

身近な社会資本の見学会

新潟地域振興局 地域整備部長 原山 茂

建設産業は、暮らしを災害から守り、いつでも快適で豊かに暮らすことができるようにするために、重要な役割を担っている本県の基幹産業です。

しかしながら、近年、建設業への理解不足や3Kイメージなどから、離職者の増加とともに新規入職者の減少に直面し、将来の担い手不足が大きな課題となっています。

県では地域を支え暮らしを守る「土木」の魅力と重要性をPRし、その必要性への理解を深めてもらうとともに、建設産業を将来の職業選択の1つとして考えてもらうため、県内の工業系高校の生徒のみなさんを対象とした「身近な社会資本の見学会」を平成25年から開催しています。

今年度、新潟地域整備部では、NPO法人にいがた地域創造センターと連携し、県立新潟工業高校土木科1年生のみなさんに参加いただき「山の下閘門排水機場」と「山田雨水ポンプ場土木工事」（新潟市発注）の見学会を9月15日（木）に開催しました。

当日は、「私たちの住む街は海面下」と題して、新潟地域の特徴であるゼロメートル地帯や地盤沈下の仕組みなどについて学習した後、2班に分かれて見学現場へ向かいました。

山の下閘門排水機場（新潟市東区）は、ゼロメートル地帯が広がる通船川流域を水害から守っている重要な施設であり、水位の異なる河川間を通航するための閘門を備えています。生徒のみなさんは、小舟に分乗して通船川と信濃川の2メートルの水位差を体験し、その高低差に驚くとともにその役割を実感していました。

山田雨水ポンプ場土木工事の建設現場では、先輩である若手技術者と建設現場の感想や建設産業に従事する魅力などについて意見交換し、就職後をイメージしていたようです。

参加した生徒のみなさんには、これらの現場見学を通じ、土木に対する職業意識を醸成し立派な技術者を目指してほしいと思います。

最後になりますが、見学会の企画・運営をしていただいた、にいがた地域創造センターの皆様にお礼を申し上げますとともに、今後の益々の御発展をお祈りいたします。



見学会を振り返って（事業部）

■教師の感想

【座学、通船川・山の下閘門排水機場】

今回は、土木を学んで間もない1年生が対象であったので、社会資本の整備や役割を学ばせるには効果的な見学会でした。特に、乗船体験は、実際に信濃川と通船川の水位差を体験することで、新潟がいかに低地であることを実感させ、排水機場の重要さが理解できたと思います。



乗船体験に先だって行われた、通船川の役割や地盤沈下等に関する講義もよく、

後の体験を十分に生かすことができ、見学会の順序がよく練られていました。特に、水位の高低の説明はわかりやすく、生徒も実際に船に乗り水位の変化が実感できたと思います。

【山田雨水ポンプ場工事現場】

以前の現場見学会では、現場にて工法などの話が主でしたが、「担い手確保」が叫ばれてからは、見学や工法ももちろんであるが、現場で働く若い土木技術者からの話を伺う場面が多くなっています。生徒の感想などは、土木現場のやりがいや達成感を感じる場面に関するコメントが多く、このような経験を重ねることで土木事業への理解と興味が深まるものと感じています。産・官・学の連携は、今後益々重要になると思います。

現場で活躍されている新潟工業高校OBの方の話

を聞くことができ、生徒も現場での仕事をイメージでき有意義であったと感じます。ポンプ場の基礎工事は生徒にとって、頭ではイメージしにくい部分だったので、良い経験になったと思います。さらにポンプ車によるコンクリート打設の作業が見られると良かったと思います。(工程と見学の日程が合えば)。

■生徒の感想＜抜粋＞

- 今回の学習では自分の将来を決める手がかりになったので良かった。
- 最近の土木事情では、ドローンによるデジタル測量を行うこと等、情報技術を駆使した工事現場が多くなって来る。
- 新潟市の1/4がゼロメートル地帯であることがわかったが、自分の住んでいる所は大丈夫か心配になった。
- 普段見ることができない橋の裏側や船からの景色はとても新鮮であった。
- 土木の仕事はとても達成感のある仕事だと感じた。特に完成したときの達成感の話聞き、仕事の一番のやりがいだと思った。
- 今まで知らなかった(土木)用語を知ることができた。
- 高さや幅を管理することはとても責任があることで、大変だと思った。
- 若い技術者から2級土木施工管理技士等の資格を取得することを勧められ、頑張っって取得したい。
- とても危険だが、やりがいも沢山あることがわかり、現場で働いている人は、自分たちが造ったことにやりがいを感じていた。いろいろな人たちとの関わりが大切だということがわかった。
- 土木のことに興味がわき、とても良い話を聞くことができた。
- 土木の仕事は、多くの地域に貢献していることを知ることができた。



■受託者の感想

社会資本の整備・維持管理、その品質確保及び冬期の除雪を含む災害時の対応等を通じた地域の維持等に支障が生じないよう、地域における「担い手の確保・人材育成」は極めて重要な課題とされ、この課題を改善すべく関連法を改正してから3年が経過している。



しかし、地方の関連業への国家的投資バランスが崩れていることなどから、取り巻く情勢下ではその課題の好転など、顕著な変化は感じられない。

今回の見学会は、「我々の生活を支えている様々なストック資本を乗船して見ること」、「整備中の現場で土木構造物を見ること」、「そこで働く人(若手技術者)にスポットを当てた現場体験」がポイントであった。



普段何気なく利用している身近な社会資本について、我々の生活・暮らしの安全安心を確保していること、整備や保全に携わる「担い手」の重要性や土木事業に関わるやりがいや魅力があることをアピールしたが、対象生徒の学習姿勢などから、正しく学んでもらえたものと考えている。

座学では、次世代の建設産業には、当たり前普及する技術として、ドローン技術を紹介したが、関連する質問が出され敏感に反応を示していたことから、情報技術に関する話題は次回以降では必須項目と考える。

座学では、次世代の建設産業には、当たり前普及する技術として、ドローン技術を紹介したが、関連する質問が出され敏感に反応を示していたことから、情報技術に関する話題は次回以降では必須項目と考える。

今回の見学会を終えて、課題や計画メニューなどを振り返り、次年度以降の事業計画・実施に効果的に反映させることが必要である。

この見学会は、建設産業や関連分野への新規入職者の増加支援(「担い手確保」)につながる広報活動の一つであり、その時代の流れを的確に反映し、継続的に取り組んでいくことで、必ず成果が現れるものと期待している。



「第4回 地域懇談会in南魚沼」活動報告

事業部

当法人は、まだ「知名度」が低いのではとの思いで、こちらから各地域に出向きPRする地域懇談会をスタートさせ、最初は村上、次に糸魚川、昨年は十日町で開催し、今回は南魚沼で開催しました。

平成28年10月12日（水）に正会員19名、賛助会員5名、県関係者11名、一般参加者10名、総勢45名での懇談会となりました。

懇談会では、当法人の山岸理事長から支援等に対して御礼の挨拶を皮切りに、齊木事業部長から当法人の設立趣旨や、県とタイアップして高校生の社会資本見学会等の事業活動と賛助会員のメリットなどを紹介し、一般参加者の賛助会員への入会と支援をお願いしました。



次に講演として、「地域の守り手として輝く続ける建設産業」と題して南魚沼地域整備部長の坂西和也氏から、建設産業を取り

巻く環境や管内の現状、予算状況、今後の事業展開、管内の建設業の現状及び社会基盤整備が生活に貢献する情報発信の取り組み及び課題等についてご講演いただきました。また、おまけとして「体にいい酒は何か」について紹介頂きました。

最後に、「あなたの血管だいじょうぶ？」と題し

て南魚沼市福祉保健部保健課成人業務課主幹梅沢百合子氏よりご講演を頂きました。南魚沼市では生涯を通じてだれもが健やか



かでいきいきとくらせる地域（まち）を目指し「いきいき市民健康づくり計画」を策定し各地域での啓蒙に努めています。今回は、視点を変えて我々も健康について生活習慣の見直しのヒントになればとお願いしました。

参加者からは、改めて自分自身の生活を見直す機会となった。また、朝礼などで社員に伝えていきたいとの声も出ていました。この後に懇親会を控え、菓を飲んで臨むようでした。

意見交換を深める懇親会では、新潟県建設業協会六日町支部の島田支部長がご挨拶の中で、「参加者名簿を拝見し、かまえて参加したが懐かしい方々が多くおられ、大変有意義な会と感じた。」とのお話があり、当センターへの協力を表明されました。また、各参加者間での有意義な意見交換の場ともなりました。今後も、継続的に地域懇談会を実施することにより一定の成果があるものと感じております。

参加頂きました県、正会員、賛助会員及び一般企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成28年度 姫川・関川総合水防演習の参加報告

広報部

平成28年5月21日（土）糸魚川市寺島の姫川河川敷で姫川・関川総合水防演習が行われました。当日は晴天に恵まれて演習日和となりました。

北陸地方整備局では毎年、局管内の主要な河川で水防演習を行っておりますが

平成18年以来、10年ぶりに姫川で大規模な総合水防演習が行われ、NPOにいがた地域創造センターの理事長に出席の依頼が有りました。

主催は関川・姫川水防連絡会、糸魚川市、新潟県、国土交通省北陸地方整備局で参加団体は95団体、約1,300名という大規模な演習でした。

演習は姫川の水位が上がり、氾濫注意水位（レベル2）～氾濫危険水位（レベル4）、堤防決壊・氾濫まで移行する想定に合わせて、各レベル毎に時間を追って消防団による水防活動の工法演習（川倉工・シート張り工・木流し工・土のう積工等）や避難勧告、救援物資輸送、ライフライン復旧、情報収集や

ヘリによる救難救助など様々な実働演習を行いました。

今回の総合水防演習は「忘れない7.11災害 あの経験を未来のために」と題して平成7年7月11日に発生した姫川・関川大規模災害を想定した出水時の訓練で、関係機関の広域な連携が確認され、非常に有意義な演習でした。



消防団による立蛇籠工・T型マット工設置作業

活動状況報告

(平成27年11月～平成28年10月まで)

■平成27年

- 11月5日 第3回地域懇談会in十日町 (ラポート十日町)
・NPO法人にいがた地域創造センターについて
・講演1:「大地の芸術祭と地方創性」
十日町市産業観光部長 渡辺 正範 氏
・講演2:「十日町管内における最近の話題」
新潟県十日町地域整備部長 小泉 良彦 氏
・参加者: 正会員: 22名、賛助会員: 14名、
県職員: 6名、市職員: 1名、
一般参加者: 20名 合計63名
- 11月12日 第47回 理事・監事会議
(新潟県建設技術センター 会議室)
・平成26年度決算について
・平成27年度予算(案)について
・身近な社会資本の見学会の実施状況について
・地域懇談会(in十日町)の実施状況について
(山岸理事長以下18名(全22名))
- 12月18日 第48回理事・監事会議
(新潟東映ホテル 3階会議室)
・平成27年度総会について
(山岸理事長以下18名(全22名))
- 12月18日 平成27年度通常総会 (新潟東映ホテル)
・平成26年度事業報告及び収支決算の承認につ
いて
・平成27年度事業計画及び収支予算(案)につ
いて
(正会員298名 内 出席者104名
委任状提出者139名)
- 12月18日 講演会及び懇親会 (新潟東映ホテル)
第1部
講 師: 公益財団法人新潟観光コンベンション協会
事務局次長 横山 裕 氏
演 題:「観光地づくりから関係地づくりの取り
組み交流による地域資源の価値創造に
むけて」
第2部
講 師: 新潟県土木部長 高橋 猛 氏
演 題:「最近の土木行政について」



■平成28年

- 1月21日 身近な社会資本の見学会振返り会議
(監理課・新潟地域整備部: 4名、
NPO: 11名、計15名)
- 2月10日 河川情報モニター地域担当者会議
(技術士センタービル 8階)
・新潟県の河川管理について
・平成28年河川情報モニターの実施計画につ
いて
・平成27年河川情報モニター実施に関する問題
点等について
(河川管理課: 4名、地区担当者: 17名、
NPO: 7名、計28名)
- 4月17日 第29回新潟県都市緑化フェア
(新潟県スポーツ公園)
(山岸理事長以下4名)

- 5月21日 姫川・関川総合水防演習
(姫川右岸堤防及び河川敷)
(大塚和雄理事)
- 5月30日 第49回理事・監事会議
(建設技術センター 会議室)
・今年度の事業活動について
(山岸理事長以下19名(全22名))
- 6月1日 都市公園情報モニター担当者会議
(都市整備課: 5名、地区担当者: 13名、
NPO: 8名、計26名)
- 7月13日 にいがた道の研究会 第14回トーク会
(新潟会館)
[支援事業]
・会員、一般市民及び県関係者 約70名
- 7月19～24日 パネル展「道の駅 あらい」くびき野情報館
(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
[支援事業]
・展示場入場者 約260名
- 7月26日 第50回理事・監事会議
(建設技術センター 会議室)
・身近な社会資本の見学会について
・地域懇談会について
・平成28年度総会の講演会講師について
・今後のNPOによる河川巡視について
(山岸理事長以下17名(全22名))
- 8月5日 「身近な社会資本の見学会」の
事業実施に向けた担当者会議
(新潟県庁 1103会議室)
・見学会事業の実施概要について
・実施日: 9月15日、予備日9月26日
・実施における運営体制について
(監理課: 1名、新潟地域整備部: 2名、
NPO: 22名、計: 25名)
- 8月11日 万内川砂防公園サマーフェスティバル
(万内川砂防公園)
[支援事業]
・砂防公園入場者 約2,040名
- 9月15日 「身近な社会資本の見学会」の実施
[新潟県土木部広報事業]
・対象者: 新潟工業高校 生徒38名、引率者3名
・実施内容
①室内学習(新潟地域振興局)
身近な社会資本の役割、建設産業の役割、
担い手育成を資料やDVDで学ぶ。
②既存の社会資本見学
(乗船体験: 山ノ下排水機場、通船川)
舟を使用して通船川を周遊し、河川から社
会資本の意義及び整備状況を確認する。
③建設中の社会資本見学
新潟市発注: 山田雨水ポンプ場土木工事
施工業者: 丸運・加賀田特定JV
(土木部企画調整室: 1名、
新潟地域整備部: 鈴木副部長以下3名、
NPO: 山岸理事長以下23名)
- 10月5日 第51回理事・監事会議
(技術士センタービル 8階)
・平成27年度事業実施状況等について
・地域懇談会(in南魚沼)の開催について
・平成28年度総会の開催日及び講演会(案)に
ついて
・役員(理事・監事)交代の人選について
・支援事業への補助金について
(山岸理事長以下17名(全22名))
- 10月12日 第4回地域懇談会in南魚沼(ホテル坂戸城)
・NPO法人にいがた地域創造センターについて
・講演1:「地域の守り手として輝き続ける
建設産業」
新潟県南魚沼地域整備部長 坂西 和也 氏
・講演2:「あなたの血管だいじょうぶ?」
南魚沼市福祉保健部成人業務主幹
梅沢百合子 氏
・参加者 正会員: 20名、
賛助会員: 5名、県職員: 13名
市職員: 1名、一般参加者: 10名
合計49名

河川情報モニター実施報告

企 画 部

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も11年目となりました。平成28年は、151名（延べ506名）の会員の皆様のご協力により、4～10月で4回程度134河川の巡視を無事に行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化、一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

■平成28年（4～10月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長 (km)	NPO 配置人員	NPO実施回数 延人員
	主 任	副 任				
村 上	高橋 一男	伊藤 勝夫	9	23.5	5	12
新 発 田	渡邊 秀美	渋谷 吉則	1	27.0	10	34
新 津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.1	21	71
津 川	永井 将裕	伊藤 恒彦	4	18.7	3	9
新 湊	鈴木 政義	高橋 英一	6	45.6	12	12
巻	真田 明	高橋 宗男	7	138.4	13	46
三 条	河内 孝	星野 正三	12	107.4	8	32
長 岡	吉野 利夫	新保 弘	9	116.8	28	103
与 板	吉野 利夫	新保 弘	3	47.0		
小 千 谷	吉野 利夫	新保 弘	10	39.0		
魚 沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	3	12
十 日 町	井口 久雄	樋口 利幸	10	105.2	12	36
南 魚 沼	中澤 淳一	柄沢 安衛	3	30.2	4	13
柏 崎	赤堀 洋一	関矢 勝広	3	49.2	6	24
上越・上越東	大塚 和雄	金子 進	9	137.3	16	67
糸 魚 川	金子 進	大塚 和雄	3	40.6	4	11
佐 渡	佐々木敏和	小鷹 賢正	11	56.0	6	24
計			134	1,136.4	151	506

都市公園情報モニター実施報告

企 画 部

県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

■平成28年 都市公園モニター担当者

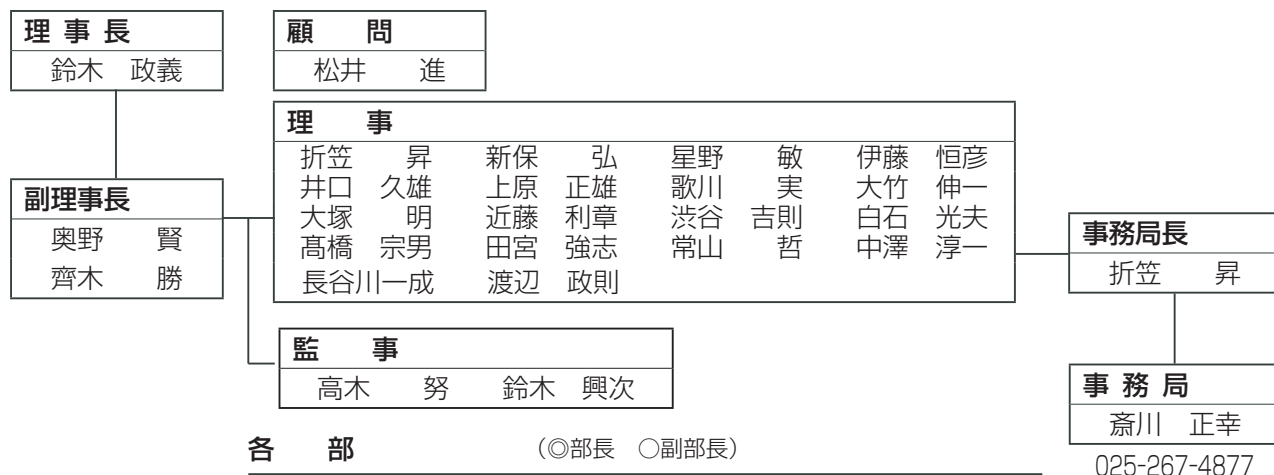
公 園 名	担 当 者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	白石 光夫	古嶋 秀一
聖籠緑地・島見緑地	伊藤 勝夫	長谷川一成
鳥屋野潟公園女池・鐘木地区	高木 努	阿部 高次
スポーツ公園北地区	真田 明	村木 昭一
スポーツ公園南地区	奥野 賢	品田 吉廣
県立植物園	後藤 勇夫	寺尾伸英一
大湊水と森の公園	諏訪部 豊	金子 進



当NPO法人の役員は下記のとおり改選されました。（任期2年）

なお、併せて各部員は次のとおりとなりました。

◆ 組 織 図（理事21、監事2）



総 務 部							
◎折笠 昇	田宮 強志	近藤 利章	斎藤 和幸				
○高橋 宗男	乙川 秀夫	石川 幸作	田中 明				
企 画 部							
◎新保 弘	中澤 淳一	上原 正雄	白石 光夫				
○渋谷 吉則	袖山 英司	高柳 寿光					
事 業 部							
◎星野 敏	歌川 実	伊藤 勝夫	真田 明				
○常山 哲	古嶋 秀一	本田 敬二	村木 昭一				
広 報 部							
◎伊藤 恒彦	長谷川一成	渡辺 政則	高橋 英一				
○大竹 伸一	鈴木 義朗	藤田 太子					

■ 会員の動向

〈会員数〉

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成21年度 H21.11月	平成22年度 H22.12月	平成23年度 H23.12月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月	平成27年度 H27.12月	平成28年度 H28.12月
正 会 員	164	288	295	292	293	296	298	298	280
賛 助 会 員	個人	—	1	1	1	1	1	1	1
	法人	—	163	152	152	156	156	157	159
計	164	452	448	445	446	453	455	456	440

編集後記

お忙しい中をご寄稿いただきました皆様、大変ありがとうございました。

今年は役員の改選と各部員の刷新がされました。山岸理事長以下退任される理事・監事の方々お疲れ様でした。今後は鈴木新理事長の下で新役員・部員が、建設技術の知識を活かしながら新鮮なセンスで県民のニーズに応じた社会貢献活動を行ない、地域活性化に寄与できればと思います。(S)



特定非営利活動法人(NPO法人)

にいがた地域創造センター

理事長 鈴木 政義

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18

(一財)新潟県建設技術センター内3階

TEL/FAX (025)267-4877